

CONTENTS

- 特集1.....2
- 特集2.....4
- わたしたちのクラブ活動紹介します!!...6
- 教職員紹介.....8
- ゼミに直撃!.....9
- 大学にプラス!.....10
- 地域にプラス!.....12
- 就職活動最前線.....14
- 若桐会Letter.....15
- 学園100周年プロジェクト.....16

特集1

公開講座 金田一秀穂氏

「金田一先生に聞く 日本語ヒミツばなし」

特集2

学生たちの活動レポート



学園100周年プロジェクト

十文字学園は2022年に創立100周年を迎えます

～十文字学園創立100周年記念募金～

十文字学園に向けたご高配とご支援を賜りたくお願い申し上げます。
趣意書およびお申し込み方法の詳細は、100周年サイトでご覧いただけます。
振込用紙が必要な方は、十文字学園100周年プロジェクト事務局までご連絡ください。



資料ご提供のお願い

ただいま「十文字学園百年史」の編纂を進めています。
皆さまがお持ちの関連資料の提供にご協力いただける方は、事務局までご連絡ください。

例) 短期大学・大学・学科・専攻などで配布された刊行物や印刷物、クラブ・サークルのパンフレット・ポスター、
イベントやキャンパス内外のスナップ写真など、学生の様子が伝わるもの。
※1971年、1973年の卒業アルバムをご提供いただける方はご連絡ください。

昭和62年度
入学式の
様子



懐かしい体育館内の様子。学生指導は高橋眞琴先生。体育館は、学園創立80周年を記念して平成15年に記念ホールに建て替えられました



◀ グレンチェックやロングのタイトスカートが当時の流行でした

1号館ピロティでの受付



十文字学園
100周年プロジェクト
事務局

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
TEL 048-423-3749 (直通)
E-Mail 100th@jumonji-u.ac.jp

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
TEL 03-3916-2030 (直通)
E-Mail 100th@jumonji-u.ac.jp

Jumonji Press No.51
2021年3月15日発行

発行：十文字学園女子大学
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
TEL 048-477-0555 (代表)

編集：十文字学園女子大学 広報部

編集指導：石野 榮一 (文芸文化学科教授)

取材協力：ライターデザイン部 唐津 奈々子、蛭川 美佳子、
植村 明絵、富樫 奈々、中西 麻樹

制作協力：ケイ・アイ・エス 株式会社

表紙の写真

今回の表紙は、今年度よりスタートした食品開発学科1年生5名に登場していただきました。写真の622教室は食品の栄養成分、香り成分、添加物や農薬など様々な分析実験をするために新設された機器室です。学生たちは、日々この教室で実験に取り組んでいます。

※新型コロナウイルス感染防止対策(スタッフの検温・マスク着用・手洗い)を実施し徹底した上で取材・写真撮影を行っています。また、撮影のために一瞬マスクを外した写真を掲載しております。

編集後記
第51号のJumonji Pressは、日本語研究の第一人者・金田一秀穂先生を講師にお招きした公開講座を特集しました。少人数の幅の広さについて語る金田一先生が今も印象に残っています。
また、コロナ禍で行動が制限される中でも、学生は様々な活動に取り組まれました。少しでもその様子を皆さまにお伝えできれば幸いです。あらためて取材にご協力くださった方々に心より御礼申し上げます。

唐津 奈々子



公開講座

金田一先生に聞く 日本語ヒミツばなし

11月3日、文芸文化学科の日本語教員養成課程開設を記念した公開講座がオンライン形式で開催されました。講師は日本語研究の第一人者・金田一秀穂先生。今回の特集では、言葉や日本語についてわかりやすく解説した同先生の講演を抄録してお届けします。



コーディネーターの文芸文化学科 松永修一教授

日本で一番美しい言葉、最高水準の言葉を使える人だと僕は思っています。谷川さんの詩は誰もがわかるような言葉しか使っていない。

日本語の性能を学ぶことで
思考の幅を大きく広げよう

質がすごく重要になります。でも、僕らがこの世界の複雑な物事を言葉に変えて考えたり説明したりする場合には、やはりなるべく多くの語彙を持っていたほうが都合がいいんです。

ここで自動翻訳機の問題について考えてみましょう。こんな便利な機械があるのなら、僕らはもう外国語を勉強する必要がないんじゃないか。外国の人に日本語を教える必要もないんじゃないか。正解はわかりません。でも、今の人たちはこの問題についてちゃんと考えておくべきだと思います。

例えば、僕がこの机の上に手帳を置いてそのまま帰ってしまったとします。日本語ならその状況を「手帳を置いていった、忘れていった」と言います。でも英語では「ゼア・イズ・ア・テチョウ・オン・ザ・デスク」、単に机の上に手帳がある、という言い方しかないはずなんです。ですから、自動翻訳機では「手帳を忘れていった」とは翻訳されない。そこが自動翻訳機の限界であり、僕らが外国語や日本語を学ぶ意味の一つであるといえるのではないのでしょうか。

先ほど、お刺身という日本語のおかげで、僕は死んだ魚の生の肉にすぎないものを楽しめる、と話しました。でも、逆に日本語しか知らないために楽しめないこともたくさんあるわけです。例え

言葉はこの世界のものを考え、
感じるための道具

今の学生は中学や高校で意見文の書き方を習うようで、大学の授業で作文の課題を出すと、まず「〇〇について私はこう思います。その理由は三つあります。一つ目は……」なんて書いてくる。僕は「それ、やめたほうがいいよ。無駄だぜ」といつも言います。作文というのは、実は考えたことを書くんじゃないんです。書きながら考えることが大事なんです。頭の中でいろいろ考えたり感じたりしたことを文字言語に変えることで、ゴチャゴチャしていた自分の考えが整理されてクリアになる。それこそが作文の価値なんです。書きながら考える。言葉はコミュニケーションの道具だなんてよくいわれるけれど、それは言葉の機能の一部で、言葉ってというのは考えるための道具なんです。

僕らは何かを考えたり感じたりするときに言葉を使います。そして言葉によっていろんなことを決めるわけね。例えば皆さん、お刺身好きですよ。でも、「死んだ魚の生の肉は好き？」と聞かれたら、ベトナムなどではホビロンという孵化しかかったアヒルのゆで卵を好んで食べます。僕らは鶏肉も卵も食べますが、その中間のものというのは、何か得体が知れない感じがして気持ち悪い。でも、そういうものを表す日本語がもしあったら、刺身と同じように喜んで食べているかもしれません。

このように、僕らは日本語という言葉の制約の中で暮らしています。この講座をきっかけに、皆さんも自分たちの思考を狭めている言葉の性能についてもっと勉強して、多くの気づきを得てほしい。そして、言葉の壁を越え、この世界のいろんなことを自在に考えられるような人になってほしいと思います。

金田一 秀穂氏
言語学者

1953年東京生まれ。上智大学文学部心理学科卒業、東京外国語大学大学院日本語学専攻修了。中国大連外国語学院などで日本語を教え、ハーバード大学客員研究員を経て、現在、杏林大学外国語学部教授。専門は日本語教育、言語行動、意味論。祖父の金田一京助氏は言語学者、父の金田一春彦氏は国語学者と、日本語学一家に育つ。著書に、『日本語のへそ』（青春新書インテリジェンス）、『金田一家、日本語百年のひみつ』（朝日新聞出版）、『金田一秀穂の心地よい日本語』（KADOKAWA）等。

司会の文芸文化学科
好本恵教授

公開講座終了後、金田一秀穂先生と文芸文化学科の学生による「交流会」が9号館アクティブラーニング学習室で催されました。まず、司会進行を務める新屋敷星さん（2年）が公開講座を視聴した感想と感謝の言葉を述べた後、質疑応答へと移行。「国語教員として、生徒の語彙力を高めるよい方法は?」「辞書に載せる言葉はどういった基準で選ぶ?」「生徒の難しい質問にうまく答える方法は?」といったさまざまな学生の質問に対し、金田一先生は、例え話や自らの体験なども織り交ぜながら懇切丁寧に回答していました。最後は金田一先生たちの似顔絵が貼られたホワイトボードの前に全員が集まり、記念撮影。本学のマスコットキャラクター「プラスちゃん」のぬいぐるみを抱えて、最後まで笑顔の金田一先生でした。



学生たちの活動レポート

新型コロナウイルスの影響で活動が制限される状況でも、学生たちはさまざまな工夫を凝らして自主的に活動に取り組んでいます。健康や安全に十分配慮し、Zoomなども使ってコミュニケーションを取りつつ積極的に活動に参加しました。その中でもユニークな活動にトライした学生たちの声を紹介します。



大学の食環境の向上を目的に立ち上がった「プラスごはんプロジェクト」の一環で、「学食メニューコンテスト」を開催しました。本学学生食堂のメニューを学生・教職員より広く募集し、学内投票で選ばれたメニューがそのまますぐに販売されるという取り組みです。2020年2月～3月の期間に15点の応募が寄せられ、フンプレート部門、定食の部、一品料理の部に分かれて投票が行われた結果、以下のメニューが最優秀作品として選ばれ、12月14日、15日、18日の3日間に学生食堂で販売されました。

プラスごはんプロジェクト 学食メニューコンテストに挑戦！

※「プラスごはんプロジェクト」は、令和2年度地域連携共同研究所の研究プロジェクトとして採択され、3学科（健康栄養学科 食物栄養学科、文芸文化学科）7人の教員が学生たちと共に取り組んでいます。本学の近隣地域への食や料理をキーワードとした情報の発信、発信、共振により、食環境の整備や人々の食生活の改善を通じた健康増進が目的です。この取り組みは学食を運営する株式会社グリーンハウスの協力を得て実施しています。

モチモチした麺に肉みそがよく絡んでおいしいです

フンプレート部門 糖質オフ!! ジャーチャー麺

●エネルギー407kcal ●410円

コロナ禍でさまざまな活動が制限される中、学生生活の最後に何か一つでも挑戦してみたいと思い、コンテストに応募しました。テーマは「糖質制限」。女子大学生の中には、日頃から食事に気を遣っている人が多いと思いますが、おいしいものがあふれている世の中で、我慢ばかりではもったいない! そんな想いから、ダイエット中の方でも食べやすい、糖質オフのジャーチャー麺を考案しました。これが学食のニーズと合致したようで、食べてくれた友人から「おいしかったよ」とのメッセージをもらったときは、喜びと安堵がこみあげました。（食物栄養学科4年 宮澤 佑衣）



見た目も華やかで食べていて楽しくなります

定食部門 野菜たっぷりビビンバ定食

●エネルギー640kcal ●410円

チョレギ風サラダ、わかめスープと合わせて、1日に必要な野菜の1/2量を摂ることができる定食です。ビビンバ丼にはキムチ風味の細切り大根、サラダには韓国海苔を散らして味と食感にアクセントをつけました。

目指したのは、おいしくて健康的なメニューです。実際に食堂で作っていただいた料理も、野菜たっぷりで彩りがよく、ごま油の香りも効いていて、狙い通りの仕上がりになっていました。この企画に関わって下さった皆さんや厨房の方々に感謝いたします。（岡本三献立班 食物栄養学科4年 飯野 晶子、塩川 もえ、清水 日向子）



鶏肉とバジルとレモンは相性最高! さっぱりとしたおいしさです

一品料理部門 鶏肉のバジルソテー

●エネルギー280kcal (単品) ●単品200円/定食410円

1食当たり1.4mgの鉄分が含まれる鶏もも肉を手軽に味わえる一品料理として考案しました。食堂では定食メニューとして提供され、多くの方に「おいしかった」と言っていただき、作り手としての喜びを噛みしめました。私は将来、栄養士として、おいしい食事で人を幸せにしたいという想いで日々学んでいます。とくに料理レシピの考案には興味があり、卒業研究（ゼミ）でも、食品ロスの削減につながるレシピを研究しています。今回、自分が考案したメニューが商品化されるという貴重な機会を得て、少し自信もつきました。この経験を生かし、夢に向かって一層努力していきたいです。（健康栄養学科3年 荻野 美奈）

※今後もメニューの提供に向けて、学食コンテストの応募を予定しています。



最優秀



いろは遊学館利用推進のための学生企画チーム

志木市内公民館初、オンラインイベントを企画運営

社会教育関連施設「いろは遊学館」の活用活性化を目指し、志木市職員と学生が協働してオンラインイベントをシリーズで開催。企画立案からセミナー講師の選定、交渉、広報まで学生主体で行いました。

●学生の声
本来は「いろは遊学館」を利用しながら、施設の魅力をアピールする予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、オンラインでの実施に切り替えました。

第1回は、志木市のキャラクター「カパル」のファンミーティングを配信。クイズやイラストコンテストなどで盛り上がりしました。

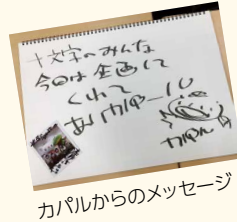
第2回は、アナウンサーの五戸美樹さんを講師に招いた就活セミナー。オンライン面接のコツや心構えをお話いただきました。

第3回は、優しい香りのアロマクリームを、参加者がレクチャーを受けながら自宅で作成しました。

開催前は「参加者がいなかったらどうしよう」と不安だったのですが、参加者がいてくれただけでうれしく感じました。来年度は後輩と一緒に取り組みたいです。（文芸文化学科3年 長沼 加奈子さん）



オンライン面接での魅力の伝え方をレクチャー



カパルからのメッセージ



来校したカパルとともにプラスちゃんも登場し、イベントを盛り上げた



長沼 加奈子さん

食品開発学科 学生編集部

Webメディアを有効活用、学科の情報発信に貢献

2020年4月に新設された食品開発学科の知名度やイメージ向上を目指し、学生有志がWeb上で広報活動を展開。独自のnoteブログおよびYouTubeチャンネルを立ち上げ、受験生や保護者に向けて情報を発信しています。

●学生の声
1期生として食品開発学科の良さを伝えたいと思い、この企画を立ち上げました。

本学科では、高い専門性を持つ先生方のもと、食品科学からマーケティング、経営学まで幅広く学ぶことができます。そんな語り尽くせぬ魅力をどうアピールするか、メンバーと定期的にオンライン会議を開き、意見を出し合いました。そのかいあって、ブログの閲覧数や♡(いいね)マークを押してくれる人もじわじわ増加。情報が伝わっていることを実感できてうれしかったです。

先生方がいろいろなことにチャレンジさせてくれるこの学科で、今後どんどん新しいことに挑戦したいです。（食開発学科1年 小山 彩華さん）



学科の授業内容や教員紹介をブログに掲載



レシピ動画などをYouTubeで発信



小山 彩華さん

学内では運動系、文化系合わせて41のクラブ・同好会（学友会登録）が活動しています。
大学生生活の1コマを彩る学生たちの活動の様子をお伝えしていきます。興味がわいたらぜひ見学に来てください!!

わたしたちの

クラブ活動紹介します!! vol.6

聴衆の心に残る 演奏を目指して——吹奏楽部

部長
幼児教育学科 3年
角下 結美



2019年7月 織姫祭

2019年 10月 桐華祭

私たち吹奏楽部は、学内で行われる桐華祭や卒業式、学外の新座市でのイベントなどに向け、日々練習しています。部員数が多くないため足りないパートは補い合いながら、聴いてくれた方の心に残る演奏を届けられるように練習を重ねています。少人数だからこそ、家族のような雰囲気、笑顔の絶えない部活です。

例年、4月の入学式で新入生が退場する際に演奏をさせていただき、7月の織姫祭では浴衣を着て七夕に関連した曲を披露しています。10月に行われる桐華祭でのステージ発表は演奏する曲も多く、特に力を入れていきます。毎年部員たちで話し合って決めたテーマをもとに曲や衣装を決めています。

一昨年11月の「新座快適みらい都市市民まつり」では、西武台高校の吹奏楽部の生徒と合同演奏をさせていただきました。11月には学友会イベントのツリー点灯式にも参加し、毎年クリスマスにちなんだ曲を披露しています。3月の学位記授与式でも入学式と同じように、卒業生が退場する際に演奏を

- 活動日
月曜(第3を除く)、
木曜、土曜(第1、3)
- 活動場所
防音室
- 活動内容
練習、
イベントへの参加
- 部員数
8名



行っています。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、イベントへの参加がオンラインで開催された桐華祭のみになってしまいましたが、オンラインだからこそできることをしようと部員たちで考えました。演奏だけではなく振り付けも覚え、初めて動画編集にも挑戦しました。今後は学内での活動をさらに広げていきたいと考えています。

地図とコンパスを頼りに スピードを競う——オリエンテーリング部

部長
健康栄養学科 2年
九津見 梓紗



※右端は宮本樹コーチ

登校自粛が続く中、
新入生の不安や疑問の
声に対応し、
Twitterの質問箱で
3000件以上の質問
に答えました



オリエンテーリング部は、全国大会に向けて山や公園で練習に励んでいます。コロナ禍による活動自粛時にはZoomを用いて地図を読む練習を始め、少しずつ対面での練習が再開した今、コロナ禍以前より実りある練習をすることができています。

オリエンテーリングとは、地図とコンパスを頼りに地形を読み、スタンプリーのように指定されたチェックポイントを順番通りにたどってゴールまでの速さを競うスポーツで、足の速さや体力だけでなく、「地図を読む能力」が勝敗に関わるのが醍醐味です。

しかし、主将を務めている私は中学・高校とも文化部で、徒歩5分の目的地まで2時間かかったこともあるほどの方向音痴でした。そんな私が入部したきっかけは、授業の中で「子どもの周りの大人が運動を嫌いだと子どもも運動嫌いになる」と聞いたからです。地図を読むことに不安を抱えながらも、自然の中ののびのびと体を動かせることに魅力を感じ、オリエンテーリング部の体験会に参加。山の中を走ること

- 活動日
日曜、土曜(不定期、大会による)
- 活動場所
学外の山や公園、大学敷地内
- 活動内容
競技練習、地図読み練習、
体力づくり
- 活動実績
霧ヶ峰ミドル W20Aクラス2位
15km/パークO(長野県オリエン
テーリング大会) WMクラス1位
- 部員数
20名

がとても気持ち良く、雰囲気も良かったため入部を決めました。地図を読むのも走るのも苦手でしたが、コーチや先輩方は丁寧に指導をしてくれました。私が全国大会で初めて完走したとき、涙が出そうなど喜んで下さった先輩方の姿は忘れることができません。

私が先輩から受けた愛情は形を変えて、後輩や、共に部を支える仲間に向かっていきました。これまでの部を支えて下さった卒業生の方々、これからは担ってくれるまだ見ぬ後輩たち、そして何よりも今一緒にいる仲間を大切に、これからも活動していきたいです。

(主将 幼児教育学科 4年 杉山 桃葉)

名倉 秀子 教授

学生時代は人間形成に大きな影響を持つ年代。親や兄弟、友人はもちろん、普段の学びの中で教職員から受ける影響は少なくないはず。そんな私たちの成長を支える本学の教職員を紹介していきます。

教職員紹介



今回紹介するのは、健康栄養学科教授の名倉秀子先生。健康な食環境の整備や食文化に関わる分野が専門です。大学の家政学部在学中に食べ物の食感（テクスチャー）を研究する先生と出会い、「食べ物を物理学的視点で追究する」ことに感動し、食品・料理の研究に興味を持ったとか。これまで食べ物の開発研究に精力的に取り組む一方、業務用の電気中華レンジの開発に携わった経験もあるそうです。

大学や大学院で学ぶ中で教えることにも関心を持ち、栄養士・管理栄養士を養成する教員の道に。「当初は調理技術が未熟で実習の準備に1カ月もかかっていました（笑）」。

ご自身の研究成果を授業に生かすだけでなく、時に学生の料理の失敗が研究のヒントになることもあるといいます。授業で学生に伝えているのは、「自分で考える」ということ。「例えば学校給食は一度に大量の調理をします。200食作る時に4食分の分量を50倍にしても不思議とおいしくはなりません。レシピだけに頼らず、食材の状態を見て考えながら調理をすることが大切なのです」。

今後は、食の文化的な研究を深めていきたいそうで、「道元禅師の典座教訓にある修行僧の食に対する振る舞いや心持ちは、日本人の持つ食の観念ともいえるもの。料理の背景にあるそうした日本人の美意識を探究してみたいですね」。



調理する上で大切な心構えを
探求します

（ライターデザイン部 植村萌絵、富樫奈々、中西麻樹）

ゼミに直撃！ Vol.6

教育人文学部心理学科

山下 倫実 先生

今回の訪問は教育人文学部心理学科の山下倫実先生のゼミです。「恋」や「愛」に関わる現象について、心理学的な観点から研究している山下先生のゼミには、個性豊かな学生たちが集います。学生たちに寄り添いながら指導する山下先生のお話は面白さ満載でした。

（ライターデザイン部 唐津奈々子、蛭川美佳子）

山下先生の研究室は、人形が並び色調が統一されたこだわりのお部屋でした。仕事もプライベートも同じように快適な時を過ごしたいという思いから自宅と研究室は雰囲気と一緒にしています。「環境が変わらないことで気持ちが届けずに集中でき落ち着くから」だそうです。

先生の専門分野と卒研指導のテーマをお聞かせください

山下 専門は社会心理学です。私が扱う中心的なテーマは人間関係、特に恋愛関係です。博士論文も失恋の研究。親密な異性関係の研究をずっと続けてきました。

卒研指導ですが、最近の学生はあまり恋愛に興味がないようで、研究テーマは被服と化粧に関する心理の研究が多いかな。いづれにしても心理学は科学的な証明が必須です。「なんとなくこう思う」ではなく、「心を測るものさしを作ってデータを集め、世の中の人の行動や心の動きを分析すること」が欠かせません。学生には読んだ人が明日から実践してみようと心が動いた

り、ワクワクしたりするようなものをテーマに選びなさいと言っています。

ゼミの雰囲気はいかがですか

山下 それぞれ関心のあるテーマが違うこともあり、個人で仕事をこなすような職人気質で研究肌の学生が多いです。ただ、ゼミは社会の縮図だと思っています。さまざまな価値観があり、それぞれ性格も異なる。だからゼミでは全員満遍なく意見を言おう、自分の意見をしっかりとつというのを大事にしています。ほかの人がどんな反応をするのかをしっかりと見ようと。私もそこに混ざっていく感じですね。

3年生と4年生の交流も盛んで、就活や卒研について質問したり、アドバイスを



山下 倫実 准教授

専門：社会心理学
経歴：広島大学大学院 生物圏科学研究科 生物圏共存科学専攻 博士課程単位取得満期退学。卒業後、同大学で博士（学術）を取得。流通経済大学 教育学習支援センターの専任所員を経て、現職。

留学生の今

本学では学部、大学院、留学生別科で数多くの留学生が学んでいます。母国を離れ、遠い新座の地で日々勉学に励む。留学生の今、をお伝えしていきます。第5回は、中国出身のコウ・リョウさんを紹介します。

「日本での就職目指し日本語と格闘」

メディアコミュニケーション学科3年 コウ・リョウさん

子供の頃から日本のアニメが好きだったというコウ・リョウ（Kang Liyang）さん。アニメから日本語への興味が湧き、日本語専攻のある中国の大学に進学。その後、さらに本場で日本語を学ぼうと日本への留学を決めました。本学を選んだ理由は、「ピンク色のパンフレットがとても可愛かったから」。十文字についてしっかりと調べてみると、長い歴史と伝統、学園祭、先生たちの研究などから、「卒業の手助けがここにある。ここで2年間勉強したら、自分の成長につながると思いました」。

日本に対する感想は伝統・歴史ある文化、清潔感と優しさが印象深いとのこと。特に日本人は、仕事に関してまじめで丁寧を考えていて、結果だけでなく過程も大事にしているところに感心したそうです。コウさんは日本での就職を希望し、それに向けて日本語能力を上げることが一番考えています。日本語の能力向上にはアルバイトがかなり役立っているそうです。授業外の時間はほとんどが中国語での会話になってしまいましたが、アルバイト先ではどうしても日本語を使わざるを得ないため、丁寧な言葉遣いや日常会話の勉強になっているといいます。3年次から始まったゼミでは文章を書く機会も多く、日本人の学生と交流を深めながら日本語の能力向上につながっています。コウさんは今、日本語能力試験1級合格を目指し、授業やアルバイトに精いっぱい取り組んでいます（1月に合格通知が届いたそうです）。年明けから本格化する就職活動を視野に入れ「エントリーシートの記入、自己分析にも力を入れている」とのこと。



新しい生活、自分自身との戦いだったと1年を振り返るコウさん

「日本に来た当初は日本語がうまく話せずとても不安だった」というコウさんですが、インタビューでは自信に満ちた流暢な日本語で、丁寧な言葉遣いでいただきました。日々の精進の成果を見たように思いました。

（ライターデザイン部 植村萌絵、富樫奈々、中西麻樹）

指導するにあたって心掛けていることはありますか

山下 課題の出来や完成度で怒ることはありませんが、時間を守らない、連絡がきちんできないう、メールをちゃんと書けないなど、これから社会人になる人がそれでいいの？というところではかなり厳しく接しています。

大切なのは、心理学が面白いと学生自身が思うまで一緒に待つこと。人が

伸びるときや興味を持つ瞬間はどのタイミングでくるかわからない。私が「こうすれば楽なのに」と思っても、待たなきゃいけない時もあるし、逆に今押したら絶対この研究が楽しくなりそう！という時は押します。

授業については、自分が楽しい授業をすることですね。学生を驚かせたいし、明日から活



最後に学生へのメッセージを

山下 社会に出て愛される人になってほしいです。愛されて生きていくほうが絶対幸せだと思うので。そのための努力をすることも大切だと思います。もう一つは好きなことをワクワクしながらやるということ。仕事には苦しいことがいっぱいあっても楽しくない時間もあるけれど、これを楽しめればきつと楽しいことが待っていると信じて、取り組むことが大切だと考えています。

努力をすることも大切だと思います。もう一つは好きなことをワクワクしながらやるということ。仕事には苦しいことがいっぱいあっても楽しくない時間もあるけれど、これを楽しめればきつと楽しいことが待っていると信じて、取り組むことが大切だと考えています。

十文字 TOPICS

研究活動やスポーツ、ボランティア、各種イベントなど、キャンパスの内外で多彩な活動を展開する十文字学園女子大学の学生・教員たち。このコーナーでは、そうした日々の活動や出来事をご紹介します。

2020年度
Live
オープン
キャンパスを
開催



10/24,25
第54回
桐華祭



第54回桐華祭 人と人を紡ぐ われらの桐華祭~2020~

第54回桐華祭は、昨年10月24~25日にオンラインで開催されました。メインイベントは、ガチでやるステージ発表コンテスト「ガチコン!」。3組の参加者が事前に撮影した動画をZoomで配信し、投票の結果、ダンス部のOG「17th」によるパロディPVが最も票を集めました。このほか特設サイトでは、お笑いライブ(出演:四千頭身、土佐兄弟)や学生団体の動画も配信。パフォーマンス部門には声優部など6団体、展示・活動紹介には天文部や書道部など14団体、ゼミ発表部門には7ゼミが参加し、2日間でのべ3000人以上が視聴しました。



今年の桐華祭のテーマは「人と人を紡ぐ」。3密を避けねばならない状況の中でも、心のつながりは大事にしたいという思いを込めました。オンラインではお客さんの顔を直接見ることはできませんが、代わりに視聴者数が表示されたり、遠方から感想が送られてくることで、人とのつながりを実感。「オンラインだからこそ参加できた」という方もいて、うれしかったです。(桐華祭実行委員長 人間福祉学科3年 小川 莉央さん)



オープニングとエンディングのセレモニーは生配信。本番に向けてリハーサルを重ねた



初のオンライン開催を成功させるべく、入念に準備を進める実行委員会のメンバーたち

STAFF's VOICE

受験生の不安を取り除けるように

(児童教育学科 山口 莉加さん)
オンラインでのオープンキャンパスは、大学の雰囲気や設備を直接確かめられないため、不安に思う受験生も多かったと思います。そこで、できるだけ視覚的に理解してもらえよう、写真や画像入りのスライドショーを使って説明しました。また、大学の授業や入試に関する質問には、チャット機能を利用して個別に細かく説明し、受験生の不安を取り除けるように努めました。

「在学生トークライブ」のコーナーでは、大学の雰囲気をできるだけリアルに伝えるため、自分自身の体験を交えて話しました。

来場型のオープンキャンパスが再開されたときは、大学の施設や設備などはもちろん、学生の表情にもぜひ目を向けてほしいです。先輩となる在学生たちが、明るく、和気あいあいと大学生活を送る十文字のキャンパスの様子を、ぜひ肌で感じていただきたいと思います。

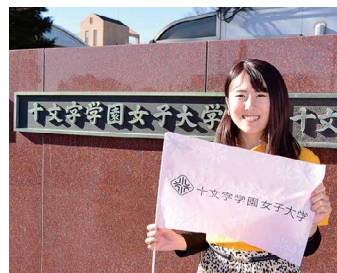


大学のことを知っていただくために

(幼児教育学科 石原 智美さん)
昨年度のオープンキャンパスでは、実際に授業で使う教科書や資料、時間割、実習時の服装、学生の作品などを来場者の方に見ていただきながら、学生生活について細かい点まで伝えることができました。しかし、今年度はウェブ上で資料を見せて説明する形なので、学科の学びや進路状況など概要しかお伝えできず、もどかしさが残りました。反面、オンラインだからこそ、移動距離、服装などを気にせず気軽に参加できるメリットもあったのではないかと考えています。

受験生の質問に答える際には、声のトーンや言葉選び、話し方を工夫して分かりやすく伝えることを心掛けました。また、特に質問がなかった場合でも、先生と私のやりとりを受験生に聞いてもらい、少しでも理解を深めてもらえるよう努力しました。

来年度はやはり直接大学に来ていただき、十文字の雰囲気を存分に味わってほしいと思います。そして、在学生とも触れ合いながら、受験や学生生活に対する不安、気になること、疑問点などがあれば、どんどん質問してほしいと思います。



自宅で参加！ 大学の雰囲気を インターネット上で体感 Live配信型オープンキャンパスを実施

2020年度のオープンキャンパスについて

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2020年度のオープンキャンパスはすべてLive配信型となりました。教員と学生による学科説明、体験講座、大学全体ガイダンス、入試対策講座、在学生トークライブ、個別学科相談などのコンテンツは、すべてインターネットを介して動画配信されました。それによって、来場の必要がなくなり自宅から視聴することができるようになりました。

2019年度までは、来場した高校生や保護者の方の対応は学生スタッフが行っていました。今年度は、学生スタッフも各コンテンツの説明を、Zoomウェビナー[※]を使って対応しました。その取り組みと活動について、学生スタッフに振り返ってもらいました。

※Zoomウェビナーについて
ウェビナーとは「ウェブ」と「セミナー」を組み合わせた造語で、オンライン上で行うセミナーのことです。本学では最大1000人が視聴できる体制を整え、Live配信型オープンキャンパスを開催しました。

2021年 オープンキャンパススケジュール (予定)

3/28(日)・ 5/23(日)・ 6/13(日)
6/20(日)・ 7/11(日)・ 7/25(日)
8/ 1(日)・ 8/29(日)・ 9/19(日)
10/3(日)・ 11/14(日)・ 12/5(日)

2021年度 桐華祭進学説明会 (予定) 10/24(日)

12/2~15
企業とのコラボで
商品化



学生のアイデアから生まれた手帳が 「セブンマイルプログラム」の特典に採用

社会情報デザイン学科松本晃子ゼミの学生が企画・開発に参加したオリジナルスマート手帳が、セブンマイルプログラム(株式会社セブン&アイ・ホールディングス)の特典に採用されました。これは学生のアイデアをもとに文具メーカー・ペーパーリー社が製品化し、人気女性クリエイター照紗のデザインを施したものです。

●学生の声/コロナ禍のため打合せすらままならない時期もありましたが、企業とコラボして商品を開発するという貴重な経験ができ、喜びと達成感でいっぱいです。



※セブンマイルプログラムへの掲載および交換は終了しています。

2021.2
市報誌面に
掲載



文芸文化学科石川敬史准教授と学生が 「市報さいたま」の特集誌面に掲載

文芸文化学科石川敬史准教授と同学科の学生が、『市報さいたま』2021年2月号の特集誌面に掲載されました。特集「図書館に行こう あたらしい自分の出会い方」にて、身近な生活の中にある市立図書館の特徴や利用経験について対談。参加した学生2名は一部のイメージ写真のモデルも務め、誌面作りに協力しています。『市報さいたま』は、さいたま市内全戸に配布されるほか、各区役所の情報公開コーナー、支所、市民の窓口、図書館、市内各駅などに配架。また、さいたま市のホームページではデジタルブックとして閲覧することもできます。

地域貢献

地域連携共同研究所プロジェクト HUGネットの活動が「彩の国埼玉環境大賞」優秀賞を受賞

2月9日（火）、令和2年度彩の国埼玉環境大賞「県民部門で、新座市を中心に環境保全活動を行っている「ふるさと」の緑と野火止用水を育む会（HUGネット）」が優秀賞を受賞しました。

HUGネットとは、「ふるさと」の緑と野火止用水を育む会」の通称で、本学が文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COE事業）」に採択されたことを契機に2015年3月に設立された、地域の環境保全と人材育成を目的とする人的ネットワークです。新座市の歴史的文化資産である野火止用水や雑木林の維持保全活動などを行う13の地域団体とそれらを支援する新座市の関係6課を、本学がプラットフォームとなり、それまでできなかった団体同士の横のつながりを作ったものです。現在は、①自然環境保全、②子どもの自然体験、③研修、④ホテル再生の4つのプロジェクトを中



子どもの自然体験プロジェクト「黒目川探検」(2019)



子どもたちに川魚の生態を説明

心に活動を行っています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により計画通りに実施できない事業もありましたが、黒目川の魚の生態について調査をし、児童教育学科の学生たちとともに「黒目川魚探検教材動画」の作成を行いました。教材は、今後、地域の小学校等で活用していただく予定です。

5年間の活動の成果が評価されたことを励みに、今後も、メンバーの活動に対する主体性を高め、SNSなどを活用した情報発信も積極的にを行い、さらなる活動の活性化を目指します。

（児童教育学科星野敦子教授）

児童教育学科星野敦子教授による地域連携共同研究所のプロジェクト「ふるさと」の緑と野火止用水を育む会（HUGネット）」の活動が、令和2年度彩の国埼玉環境大賞の県民部門で優秀賞を受賞しました。

ボランティアセンター

学生スタッフが ペープサートづくりにチャレンジ!



学生の声

コロナ禍で遊び場を失った子どもや、施設に入所している障害者や高齢者など、幅広い年代の方が楽しみ、元気になっていただけるように願いを込めて作りました。

（右：人間福祉学科2年 神崎 未帆さん）

表情豊かなペープサートが引き立つよう、背景の色や大きさにも工夫を凝らしました。初めての体験でしたが、仲間と協力し、楽しみながら制作することができました。

（左：人間発達心理学科2年 加藤 夏美さん）

「コロナ禍でも何か行動したい」という思いから、学生スタッフは桃太郎のペープサート（紙人形劇）づくりに挑戦しました。桃太郎などの登場人物の紙人形を作り、ぬり絵としても楽しめるように工夫しました。

今年度は、コロナ禍で対面によるボランティア活動ができず、施設や病院のニーズに対応した活動を中心に行いました。障害者施設入所者の余暇支援のためのぬり絵作成や、入院患者のリハビリに使用する「拘縮・皮膚疾患予防キット」の作成など、今、自分たちができることを考えて取り組みました。



ぬり絵のデータはボランティアセンターのホームページからダウンロードできます



明るいきもちで楽しんでもらえるよう想いを込めて紙人形を作りました

ボランティアセンターホームページ
<https://www.jumonji-u.ac.jp/center/volunteercenter/>
Instagram
https://www.instagram.com/jumonji_vc_gakusuta/



ボランティア活動を通して学生たちが自主性や社会性を身につけ、積極的に活動に参加できるよう2016年にボランティアセンターを開設しました。情報提供や活動を希望する学生とのマッチングなどを行っています。学生スタッフは学内にボランティア活動を広め、魅力を伝えることも目的に活動を行っています。

大学間連携



TJUP「まなびのみち」 クリーンウォークに参加

12月6日（日）、本学が加盟する大学プラットフォーム「TJUP」主催のクリーンウォークに、本学職員を含めた加盟大学の教職員、学生、地域の方々合わせて94人が参加しました。

本事業は、東松山市観光遊歩道「まなびのみち」（13km）の美化活動を行いながら歩くイベントで、当日は、新型コロナウイルス感染防止対策のため少人数のグループに分かれ、出発時間をずらすなどソーシャルディスタンスを確保しつつ実施しました。

当地区は、2019年10月の台風19号の被害が甚大だったため、途中の高台で、氾濫した都幾川とその周辺に広がる畑を前に、東松山市の職員から被害状況の説明を受けました。

新型コロナウイルスの影響で課外活動の制限が続く中、学生にとって貴重な交流の場となり、東松山市をはじめとする比企地域について学ぶ機会にもなりました。

※TJUP 県内の大学・短期大学20校が加盟するプラットフォーム。「地元で生まれ、地元で育ち、地元で生きていく若い世代への支援」というビジョンのもとに、教育連携、地域貢献、学生間交流、就職支援などの事業を協働で実施し、自治体や地元企業とともに地域活性化を目指して活動している。



公開講座

オンライン公開講座

本学では、地域の方に向けた公開講座を開催しています。2020年度はコロナ禍のため前期の講座はすべて中止になりましたが、後期はYouTubeライブを活用したオンライン型の公開講座として開催しました。

11月7日（土）
老いる中での「健康」の意味とは
「助けられ上手」を目指して

人間福祉学科共催／コーディネーター 佐藤陽教授
新座市と三芳町で地域福祉の活動に携わる木村俊彦氏と関口和宏氏、同学科の片居木英人教授をシンポジストに「健康」について考えました。

「助けて」と言うことは恥ではない。「助けられ上手」になることが大事。まずは支援対象者が生きる気力を持てるよう、専門家の力を借りながら支えていくことなど、地域で支え合う社会について語り合いました。



11月28日（土）
共生社会の実現に向けて障がいを考える
「共に学び、共に育つ学校教育の実現に向けて」
特別支援教育センター、児童教育学科共催
コーディネーター 中西郁教授

社会福祉法人ドリームヴィ理事長の小島靖子氏を講師に、ゲストの田中さき氏と、障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶ「インクルーシブ教育」について話しました。知的障がいを持ちながら小中学校を通常学級で学び、現在は企業で働いている田中氏の体験談も交えながら小島氏は、障がいのある子どもの存在は、周りの子どもたちから色々な面を引き出す可能性があること語りました。





及川 希実さん
生活情報学科4年
草加南高等学校卒業
●内定先 アルフレッサメディカルサービス株式会社

就職活動を通じてSPD（院内物品質管理）という仕事を知り、やってみたいと思ったからです。その一方、学科で学んだ会計学の知識を活かして経理関係の仕事に就きたいという思いもあり、どちらにするか最後まで悩みました。決め手となったのは自己分析です。あらためて自分が何をやりたいか掘り下げたことで、医療業界の道に進もうと決断できました。

大学時代はさまざまなアルバイトを経験してきたので、面接の話題には事欠きませんでした。また、軽音楽部に所属したことで、縦のつながりができたのも良かったです。就職活動で行き詰まったときは、軽音楽部の先輩にアドバイスをもらったり、OG訪問のきっかけを作っていたいたり、いろいろな面から助けてもらいました。

対面の選考がリモートに移行していく時期は、気持ちの切り替えが大変でした。本社での説明会に向かっている途中で電話がかかってきて、急きょリモート開催に変更になったと伝えられたときは、電話対応に慣れなかったこともあって、かなり動揺してしまいました。また、複数の病院や企業を比較しながら就活を進めるつもりでしたが、エントリーしていた病院の選考が延期になり、同時進行で比較できなくなったのも残念でした。



神戸 萌花さん
食物栄養学科4年
城西大学附属城西高等学校卒業
●内定先 学校法人慈恵大学 東京慈恵会医科大学附属病院

Q.就職先を決めた一番の理由は何ですか。

内定をいただいた病院では、患者さんに食事を楽しんでもらうために、さまざまな取り組みを行っています。その姿勢に感銘を受け、自分もここで働きたいと思いました。私の目標は、臨床栄養業務を通じて栄養・食事の面から患者さんをサポートし、病態改善や合併症の予防に貢献することです。内定先の病院なら、そんな理想の働き方ができると思いました。

Q.学業以外の経験や体験は就職活動に役立ったと思いますか。

1年生から接客業のアルバイトを続ける中で、自分は「人と接することが好き」と気づき、将来は人と関わる仕事に就きたいと思うようになりました。こうした経験は就職活動をする上で絶好のアピール材料になりましたし、アルバイトを通じて身に着けたコミュニケーション能力は、管理栄養士として働く上でもきっと役立つと考えています。

Q.就職活動で苦労したことや学んだことを教えてください。

コロナ禍の影響で、エントリーした病院が採用中止になったり、病院見学ができなくなるなど不安要素もありましたが、管理栄養士の募集自体は多く、その点は幸運でした。苦労したのは、モチベーションをどう維持するかでした。病院によって求人が出るタイミングがバラバラで、就職活動が長期化したため、途中で気持ちが途切れることのないよう、管理栄養士としての未来を思い描きながら、第一志望の選考に向けて勉強を続けました。



「家族とともにキャリアを紡ぐ」 ～カナダ留学で培った英語力を活かして～

3人の子ども（13歳、10歳、8歳）を育てながら、銀行員としてキャリアを重ねている長井陽子さん。現在は、マネーロンドリング対策（AML）の観点から世界中の金融機関を調査し、評価するという専門性の高い業務に携わっています。



新型コロナウイルス感染症対策の一環として、在宅勤務を行っている長井さん。子どもたちが学校に行っている間に少しでも仕事を進められるよう、集中してパソコンに向かう

三菱UFJ銀行は、世界各地の金融機関と取引しています。長井さんは、それらの取引先へのアンケート調査などを通して、相手が信用に足るか、マネーロンドリングのリスクはないかを調査しています。

「欧州から南米まで多様な取引先があるため、確実にアンケートを回収し、評価をするためには、お国柄なども考慮したきめ細かな対応が必要になります。難しい評価を迫られるケースもありますが、上司の助言を仰ぎつつ精度の高い評価書を作成できたときは、達成感もひとしおです」

AMLの業務では、取引先との交渉はもちろん、社内でのメールや評価書でも英語が不可欠。長井さんは「専門用語は入社後に学びましたが、英語は学生時代から好きで得意だっ

た」と話します。

「きっかけは洋楽です。小学校高学年からNHKラジオの基礎英語を聴き始めカーペンターズやビートルズに興味を持つようになりました。その後、ドイツの女の子との文通が始まったことで英語熟はさらに高まり、高校生になる頃には、いつか海外留学したいと思うようになりました」

その夢がかなったのは大学3年生のとき。NLC奨学金制度を活用し、カナダのノーザン・ライツ・カレッジ（NLC）に約1年間留学。現地では英語や社会学を積極的に学び、充実した留学生活を送りました。

しかし当時は「就職氷河期」と言われた時代。就職センター（現・就職支援課）の職員から「早めに帰国して就職活動を始めたほうがいい」とアドバイスを受けた長井さんは、予定を2カ月早めて、4年生の4月に帰国しました。それでも就職活動

は難航しましたが、最終的には就職センターの紹介により、東海銀行（当時）の子会社に内定。留学やクラブのECC部の活動で培った英語力が決め手となりました。

東海銀行の経営統合・合併を経て、現在の三菱UFJ銀行の正行員となった長井さんは、その間、3度の産休・育休を取得しながら企画や事務の部門で多様な業務を経験し、2年前に現在の部門に配属となりました。また、長らく時短勤務制度を利用して働いていましたが、末のお子さんが小学生になったのを機に、昨年からフルタイムに復帰しています。

「私が仕事と家庭を両立できているのは、夫をはじめとする家族の理解とサポートがあつてこそ。今後も家族みんなが元気で楽しく過ごせることを一番に考えつつ、仕事にも真摯に取り組んでいきたいと思っています。目標は、AMLについての知見をさらに深め、スペシャリストとして社会に貢献すること。同時に業務の効率化にも取り組んで、パフォーマンスの改善を追求していきたいです」。きりりとした表情で、抱負を語ってくれました。



ながい ようこ
長井 陽子さん

Profile
2000年3月十文字学園女子大学社会情報学部社会情報学科卒業。大学時代はECC部で部長を務めたほか、カナダのノーザン・ライツ・カレッジに約1年間留学。卒論テーマは「カナダの多文化主義」。卒業後は東海銀行（当時）の子会社である東海オペレーションマーケットに入社。合併後に正行員となり、現在は株式会社三菱UFJ銀行決済ビジネス本部トランザクションバンキング部決済企画室コルレス管理グループに所属



行員の子どもたちを職場に招待する「かがやKid's Day」。長井さんのお子さんも参加し、丸の内本館の倉庫や貸金庫、札勘定などを見学したり、名刺交換なども体験した